



1.《少女》1979年 個人蔵

Takayama Tatsuo Retrospective

人間・高山辰雄展

森羅万象への道

2018年4月14日|土|—6月17日|日| 前期:4月14日[土]—5月13日[日]
後期:5月15日[火]—6月17日[日]

◆作品保護のため、前期・後期で大幅な展示替えを行います。◆一部の作品は上記以外に展示替えを行います。詳細はホームページをご覧ください。
開館時間:午前10時—午後6時(入場は午後5時30分まで) 休館日:毎週月曜日 *ただし4月30日(月・振替休日)は開館、翌5月1日(火)は休館

主催:世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団) 後援:世田谷区、世田谷区教育委員会

特別協力:大分県立美術館、大分市美術館 協力:日本通運、損保ジャパン日本興亜

観覧料:一般1,200(1,000)円、65歳以上1,000(800)円、大高生800(600)円、中小生500(300)円

*()内は20名以上の団体料金。*障害者の方は500円。ただし、小・中・高・大学生の障害者は無料。介助者(当該障害者1名につき1名)は無料。

*リピーター割引:会期中、本展有料チケットの半券をご提示いただくと、2回目以降は団体料金にてご覧いただけます。

世田谷美術館 Setagaya Art Museum

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 Tel.03-3415-6011(代表) 展覧会のご案内:03-5777-8600(ハローダイヤル) www.setagayaartmuseum.or.jp

人間・高山辰雄展—森羅万象への道

私は人間が描きたいのです。

その「人間」というのは、私には風景でも花でもいいのです。つまり、花びら一枚でも人間を表したいと思ってきたのです。

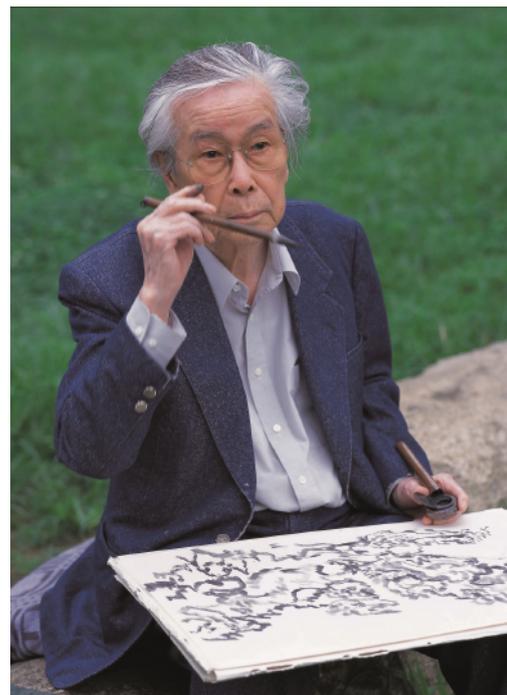
高山辰雄著『存在追憶 限りない時の中に』角川書店 2007年より

日本画家・高山辰雄(1912-2007)は大分県大分市に生まれ、1951(昭和26)年より終生、世田谷の地を創作の拠点としました。自然と人間とのつながりや、生命の尊厳について思考し、その深い精神性を湛えた絵画表現は、没後10年を経た今日もなお、高く評価されています。

1931(昭和6)年、東京美術学校(現・東京藝術大学)に入学した高山は、在学中の1934(昭和9)年、第15回帝展に初入選し、若き才能を開花させます。松岡映丘に師事し、同門の先輩・山本丘人らとともに研鑽を積みました。戦後間もないころにゴッダンの伝記に感銘を受け、1950年代に鮮やかな色面で構成した人物表現に挑みます。その後は、次第に点描による静謐で幻想的な画風へと展開し、宇宙までも視野に入れた壮大なスケールで、人間の生と死や、その存在の神秘を問い、現代社会に生きる人間を描く独自の画境を切り拓きました。1982(昭和57)年に文化勲章を受章、戦後の日本画壇の最高峰として、杉山寧、東山魁夷とともに「日展三山」と称されました。

高山辰雄が描く個々の作品には、描く対象が自然風景であっても、身近な静物であっても、高山が自身の内面で醸成し続けた繊細であたたかみのある心情がいきわたっているように感じられます。高山辰雄は、作品に託す思いを築くために、未知なる自然の広がりの中に身を委ね、森羅万象の不思議に思いをめぐらせ、生命の厳かな輝きを求めて、制作を重ねたのです。

本展は、大分県立美術館の所蔵作品を核として、大分市美術館ならびに各所蔵者のご協力のもと、各時期の代表作を集め、約180点の作品および資料により、70余年にわたる高山辰雄の画業を回顧します。人間の本質を掴もうとした人間・高山辰雄の芸術世界に触れていただければと思います。



2. 高山辰雄肖像写真
撮影：鈴木 薫

【開催概要】

展覧会名 : **人間・高山辰雄展—森羅万象への道**
Takayama Tatsuo Retrospective

会 期 : 2018年4月14日(土)～6月17日(日) 56日間
前期:4月14日(土)～5月13日(日) 後期:5月15日(火)～6月17日(日)

※作品保護のため、前・後期で大幅な展示替えを行います。

※一部の作品は上記以外に展示替えを行います。詳細は決まり次第ホームページにてお知らせします。

会 場 : 世田谷美術館 1階展示室

休館日 : 毎週月曜日 ※ただし4月30日(月・振替休日)は開館、翌5月1日(火)は休館

開館時間 : 10:00～18:00(入場は17:30まで)

主 催 : 世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団)

後 援 : 世田谷区、世田谷区教育委員会

特別協力 : 大分県立美術館、大分市美術館

協 力 : 日本通運、損保ジャパン日本興亜

助 成 : 芸術文化振興基金助成事業

観覧料 : 一般1,200(1,000)円、65歳以上1,000(800)円、大高生800(600)円、中小生500(300)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者の方は500(団体300)円。

ただし、小・中・高・大学生の障害者は無料。介助者(当該障害者1名につき1名)は無料。

※リピーター割引:会期中、本展有料チケットの半券をご提示いただくと、2回目以降は団体料金でご覧いただけます。

◆オープニング・レセプション:2018年4月13日(金)16:00-18:00

本展のみどころ

1. 過去最大規模となる高山辰雄の回顧展。

本展では、前期・後期あわせて約 120 点の日本画に加え、彫刻や素描、小下図など約 60 点を展示します。学生時代の帝展初入選作から亡くなる前年に初めて手がけた自画像まで、各時期の代表作で 70 余年の画業を通覧します。

2. 豊富な資料で高山辰雄の幅広い表現を紹介。

学生時代の植物スケッチや、戦後まもない頃に手がけた子ども向け漫画、1951 年に東山魁夷より引き継ぎ、初めての雑誌表紙絵の仕事となった『保健同人』など、これまであまり知られていなかった、さまざまな資料を紹介します。

3. 関連イベントも注目

高山由紀子氏（高山辰雄長女）や専門家の講演会に加え、旧アトリエの見学会を開催します。また、雅楽師・東儀秀樹によるトーク&ミニ・コンサートでは、高山辰雄の作品にインスピレーションを受けて生まれた自作の邦楽曲「聖家族」を演奏していただきます。

4. 成城の旧アトリエを改装した「アトリエ第 Q 藝術」では、本展との連動企画を開催

高山辰雄の旧アトリエを改装し、2017 年 9 月に世田谷区成城にオープンしたアート・スペース「アトリエ第 Q 藝術」では、本展と連動し、多面的に高山辰雄の世界を感じられる、さまざまなイベントが開催されます。

■展示：「高山辰雄 日本画以外への挑戦」（4 月 17 日 -29 日）、「高山辰雄の伴侶、高山八重絵画展（初公開）」（5 月 2 日 -17 日）

■特別対談：窪島誠一郎 [作家、無言館館主] × 高山由紀子 [高山辰雄長女、映画監督、脚本家]（5 月 6 日）

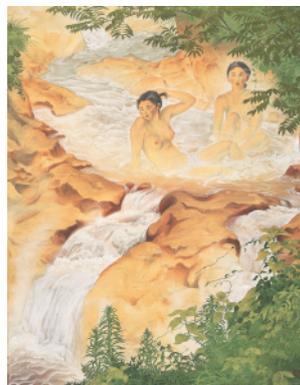
※上記すべての会場、主催：アトリエ第 Q 藝術（〒157-0066 東京都世田谷区成城 2-38-16 Tel:03-6874-7739）

詳細はアトリエ第 Q 藝術ホームページ www.seijoatelierq.com をご覧ください。

【展示構成】

1. 若き研鑽の日々 [1930 年代～ 1945 年]

高山辰雄は、1931 年、東京美術学校（現・東京藝術大学）日本画科に入学しました。在学中に第 15 回帝展に《湯泉》（図版 3）を初出品、初入選の快挙を果たし、首席で卒業。のちに妻となる女性をモデルに描いた卒業制作の《砂丘》（図版 4）は同校買上げとなりました。卒業後も、高山は山本丘人、杉山寧といった先輩をはじめとする“新日本画の創作”を目指す若き画家たちの一員として、制作に情熱を注いでいきました。



3. 《湯泉》1934 年 大分市美術館蔵
前期展示



4. 《砂丘》1936 年 東京藝術大学蔵
後期展示

2. ゴーギャンとの出会い [1945 年～ 1960 年代]

戦後まもない頃、高山辰雄は、先輩の山本丘人のすすめでポール・ゴーギャンの伝記を読み、その生き方と作風に強く感銘を受けます。《少女》（図版 5）などで日展特選を重ね、次第に画壇の中堅として頭角を現していきます。《室内》（図版 6）をはじめ、1950 年代の鮮やかな色面で構成した人物表現には、ゴーギャンへの傾倒が強く感じられます。その後、抽象的な表現による風景画を経て、宇宙まで視野におさめたかのような壮大なスケールの作品世界を展開していきました。1960 年代には、高山辰雄は、杉山寧、東山魁夷とともに“日展三山”と称され、戦後の日本画壇を牽引する中心的存在となっていきました。



5. 《少女》1949 年 個人蔵
通期展示



6. 《室内》1952 年
世田谷美術館蔵 通期展示

3. 人間精神の探求 [1970年代～1990年代前半]

1970年代以降、高山辰雄は数多くの人物像を描きます。1973年に開催した個展「日月星辰 高山辰雄展」では、《朝》(図版7)を含む六曲一双屏風の5部作のほか、幼子が無心に食事をする様子を描いた《食べる》(図版8)にみられるように、自然と人間とのかかわりや、人間の根源をみつめる作品をてがけます。その後、《少女》(図版1)や《星辰》(図版9)など、次第に点描による、静謐で幻想的な画風へと展開し、人間の生と死、人間の存在の神秘を問い、現代社会に生きる人間を描くという独自の画境を切り拓いていきました。



8. 《食べる》1973年
大分県立美術館蔵 通期展示



9. 《星辰》1983年 世田谷美術館蔵
通期展示



7. 《朝》1973年 個人蔵
展示期間：4月14日(土)～5月6日(日)

4. 森羅万象への道 [1990年代後半～2000年代]

1990年代後半以降、高山辰雄の作品は次第に色彩が抑えられ、物の輪郭が背後の空間や自然風景に溶けこむような幽玄な世界をみせはじめます。《由布の里道》(図版10)や《雲煙に飛翔》(図版11)にみられるように、少年時代を過ごした郷里・大分の自然風景も、繰り返し描かれるようになりました。まさに森羅万象に思いをめぐらせ、絵画をとおして思索を積み重ねてきた高山の世界観が際立っていきます。

最後の日展出品作品となった《自寫像二〇〇六年》(図版12)は、94歳にして描いた初めての自画像です。細い杖を手にし、荒涼たる世界に一人立つ姿は、戦後の日本画を長年の間担い続けてきた高山辰雄が自ら歩んできた道を凝視する姿そのものであるといえるでしょう。



12. 《自寫像二〇〇六年》
2006年 個人蔵 通期展示



10. 《由布の里道》1998年
大分県立美術館蔵 通期展示



11. 《雲煙に飛翔》2001年 大分市美術館蔵
展示期間：4月14日(土)～5月6日(日)

5. 学生時代のスケッチ、本の仕事、彫刻など

本展では、高山辰雄の日本画の代表作に加え、多彩な表現もご紹介します。学生時代の植物スケッチや、若き日に手がけた漫画本、初めての雑誌表紙絵の仕事『保健同人』など、画業初期における貴重な作品を展示するほか、絵画制作のかたわら作りつづけていたブロンズ彫刻作品もご紹介します。



13



14



15



16

左より 13. 《山百合》1931年 個人蔵 前期展示

14. 『マンガ ボクラノナカマ』 網島書店 1947年 個人蔵 後期展示

15. 『保健同人』 株式会社保健同人社 1951年 6月号 市川市東山魁夷記念館蔵 前期展示

16. 《作品-I》1970年頃 ブロンズ 個人蔵 撮影：上野則宏 通期展示

[関連企画]

講演会 1 「高山辰雄先生のこと」

日時：4月28日（土）14:00-15:30（開場 13:30）

場所：講堂

講師：草薙奈津子（美術評論家、平塚市美術館館長）

定員：先着 140名 / 入場無料

※当日 12:00 からエントランス・ホールにて整理券を配布

※手話通訳付き

講演会 2 「父・高山辰雄」

日時：5月20日（日）14:00-15:30（開場 13:30）

場所：講堂

講師：高山由紀子（高山辰雄長女、映画監督、脚本家）

定員：先着 140名 / 入場無料

※当日 12:00 からエントランス・ホールにて整理券を配布

※手話通訳付き

東儀秀樹トーク&ミニ・コンサート「聖家族」

高山作品から生まれた楽曲を演奏していただきます。

日時：5月27日（日）14:00-15:00（受付 13:30 より）

場所：講堂

出演：東儀秀樹（雅楽師）

定員：140名（申込先着順） / 入場無料

申込：当館 HP の申込フォームより

※4月27日（金）10:00 より申込受付（定員に達し次第、受付終了）

見学会「高山辰雄の旧アトリエ訪問」

日時：6月2日（土）13:30-14:30（受付 13:00 より）

場所：アトリエ第Q 藝術

（高山辰雄旧アトリエ、東京都世田谷区成城 2-38-16）

現地集合解散

講師：高山なおき（高山辰雄孫、アトリエ第Q 藝術チーフマネージャー）

定員：30名（申込先着順） / 参加無料

申込：当館 HP の申込フォームより

※5月2日（水）10:00 より申込受付（定員に達し次第、受付終了）

100円ワークショップ

どなたでもその場で参加できる工作など。詳細はHPにてお知らせします。

日時：会期中の毎週土曜日 13:00-15:00（随時受付）

場所：地下創作室 / 参加費：1回 100円

[高山辰雄 略歴]

1912 (明治 45) 年		6月26日、大分県大分市に生まれる
1931 (昭和 6) 年	19歳	東京美術学校 (現・東京藝術大学) 日本画科に入学
1933 (昭和 8) 年	21歳	大学在学中より、松岡映丘の画塾「木之華社」に入門
1934 (昭和 9) 年	22歳	在学中、第15回帝展に《湯泉》を出品し初入選する
1936 (昭和 11) 年	24歳	東京美術学校を首席卒業。卒業制作《砂丘》が同校買上げとなる
1946 (昭和 21) 年	34歳	第2回日展に《浴室》を出品し、特選となる
1949 (昭和 24) 年	37歳	第5回日展に《少女》を出品し、特選となる
1951 (昭和 26) 年	39歳	世田谷区成城2丁目に転居。以後、同地を創作の拠点とする
1967 (昭和 42) 年	55歳	「高山辰雄・香月泰男展」(神奈川県立近代美術館) が開催される
1972 (昭和 47) 年	60歳	日本芸術院会員となる
1973 (昭和 48) 年	61歳	「日月星辰—高山辰雄展」を開催。以後生涯にわたり3度開催されるライフワークとなった
1975 (昭和 50) 年	63歳	日展理事長を務める(2年間) 1979 (昭和 54) 年 文化功労者として顕彰
1979 (昭和 54) 年	67歳	文化功労者として顕彰される
1980 (昭和 55) 年	68歳	「高山辰雄展—未知の世界を開拓するひと」(大分県立芸術会館、神奈川県立近代美術館) が開催される
1982 (昭和 57) 年	70歳	文化勲章を受章
1983 (昭和 58) 年	71歳	大分市名誉市民となる
1985 (昭和 60) 年	73歳	「日月星辰—高山辰雄展 1985」を開催
1987 (昭和 62) 年	75歳	この年より13年間、『文藝春秋』の表紙絵を手がける 「高山辰雄展—屏風絵の宇宙」(世田谷美術館) が開催される 世田谷区名誉区民となる
1989 (昭和 63) 年	77歳	「高山辰雄展」(東京国立近代美術館) が開催される
1990 (平成 元) 年	78歳	皇居豊明殿での祝宴「大饗の儀」に、《主基地方屏風》が飾られる
1999 (平成 11) 年	87歳	構想15年を経て、六曲一双屏風《投華—密教に入る》を高野山真言宗総本山金剛峰寺に奉納
2001 (平成 13) 年	89歳	「日月星辰—高山辰雄展 2001」を開催
2007 (平成 19) 年	95歳	9月14日、肺炎のため自宅にて逝去。享年95
2008 (平成 20) 年		「高山辰雄遺作展—人間の風景」(練馬区美術館) が開催される
2012 (平成 24) 年		「生誕100年記念 高山辰雄展」(大分県立芸術会館、大分市美術館) が開催される

[交通案内]

- 東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分、もしくは美術館行バス「美術館」下車徒歩3分
- 小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅行バス「砧町」下車徒歩10分
- 小田急線「千歳船橋」駅下車、田園調布駅行バス「美術館入口」下車徒歩5分
- 来館者専用駐車場(60台、無料): 東名高速高架下、厚木方面側道400m先、美術館まで徒歩5分

[同時開催] ミュージアム コレクション I

- それぞれのふたり 小堀四郎と村井正誠
4月14日(土) ~ 7月8日(日)

●お問合せ

Tel : 03-3415-6011 (代表)

※10:00-18:00 月曜・休 (祝休日の場合は翌平日・休)

Fax : 03-3415-6413

●展覧会のご案内

ハローダイヤル 03-5777-8600

世田谷美術館
Setagaya Art Museum

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園 1-2
www.setagayaartmuseum.or.jp